



<横浜国立大学のグランドデザイン>

横浜国立大学は、開学以来自由な学風の下、実践性・先進性・開放性・国際性を精神とする教育と研究により、「知」を醸成させてきました。同時に、社会の中核となって活躍する人材を育成するとともに社会基盤を支える豊かな研究成果を発信することで、その「知」を社会に還元してきました。

本学は、「人類の福祉と社会の持続的発展に貢献する」ことを大学の理念として、高度で実践的な研究能力や職務遂行能力を持つ人材の養成を責務とし、実践的学術の国際拠点として充実することを大学全体の目標として掲げ、国立大学としての社会的責任を果たすことを目指します。

これらの理念に基づき、横浜国立大学は自らの個性を伸ばし、高度な研究をベースにした先進的かつ実践的な教育を行っていくことにより、「知」の醸成と社会還元を続けていきます。

横浜国立大学

YNU initiative

2011年7月

編集・発行：国立大学法人横浜国立大学 学務部 教務課

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79番1号

TEL:045-339-3104 FAX:045-339-3100

<http://www.ynu.ac.jp/>



「学士力」を磨く



YNU initiative
YOKOHAMA National University



横浜国立大学

「学士力」を磨く

YNU initiative

YOKOHAMA National University

学びの羅針盤

横浜国立大学の4つの精神－実践性・先進性・開放性・国際性－を踏まえて、本学は大学全体としての学士課程教育の更なる充実に向けた教育目標を定め、学内の各組織はそれぞれが担うべき学士課程教育の目標および育成人材像を明確にして、体系的な教育を実施します。

横浜国立大学 学士課程の教育目標

- 学芸・諸科学に関する豊かな知的資産を学び、それらを活かす高度な実践的能力を備え、社会の中核となって活躍できる人材を育成する。
- 研究成果に基づく教育を通して、豊かな知性・感性を養うとともに諸課題を解決に導く思考力や判断力を磨く。
- 社会・文化・自然の多様性を尊重しつつ国や社会を超えて多様な人々と交流し、共生社会の実現を図る高いコミュニケーション能力を養う。
- 高い倫理観を養いつつ積極的に課題を探求し、解決する強い意欲や責任感を高める。

Contents

- 01 教育目標の達成に向けて
- 03 実践的「知」を育むYNU教養教育
- 05 教育人間科学部の目指すもの
- 06 教育人間科学部のポリシー
- 09 経済学部の目指すもの
- 10 経済学部のポリシー
- 13 経営学部の目指すもの
- 14 経営学部のポリシー
- 17 理工学部の目指すもの
- 18 理工学部のポリシー
- 23 キャンパスマップ

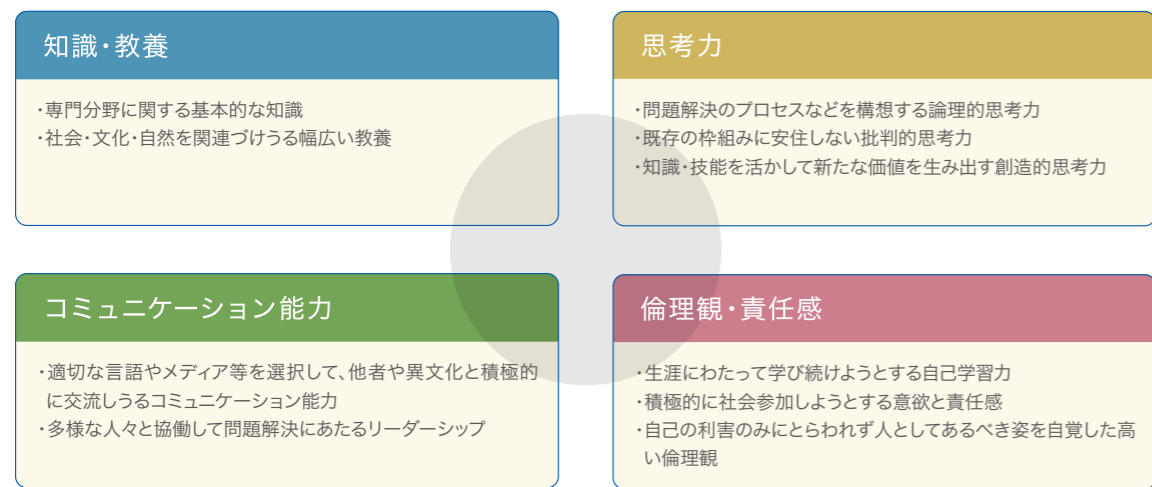
[横浜国立大学学士課程] 教育目標の達成に向けて

横浜国立大学は、本学の〈グランドデザイン〉のもとに「学士課程の教育目標」を設定し、学位授与、教育課程の編成と実施、入学者受入れの3つの方針とともに、教育の質の持続的向上に関する方針を定め、学士課程の教育目標達成に向けて前進していきます。

Policy 1 [学位授与] 国際的に通用する学位を授与するために

横浜国立大学は、幅広い教養や確かな専門的知識などに基づいて、積極的に課題解決に取り組み、適切に判断する人材に求められる力を次の4つの実践的「知」と考え、これらを身につけた人材に対して客観的な評価をし、国際的に通用する学位を授与します。

■ 身につけて欲しい4つの実践的「知」



■ 客観的な評価に基づき広く通用する学位

- ・客観性および標準性を備えた学習到達度評価に基づいて透明性の高い学位授与を行います。
- ・国際的に通用する共通性・同等性の高い学位を授与します。

Policy 2 [教育課程の編成と実施] 実りあるYNU学士課程教育を目指して

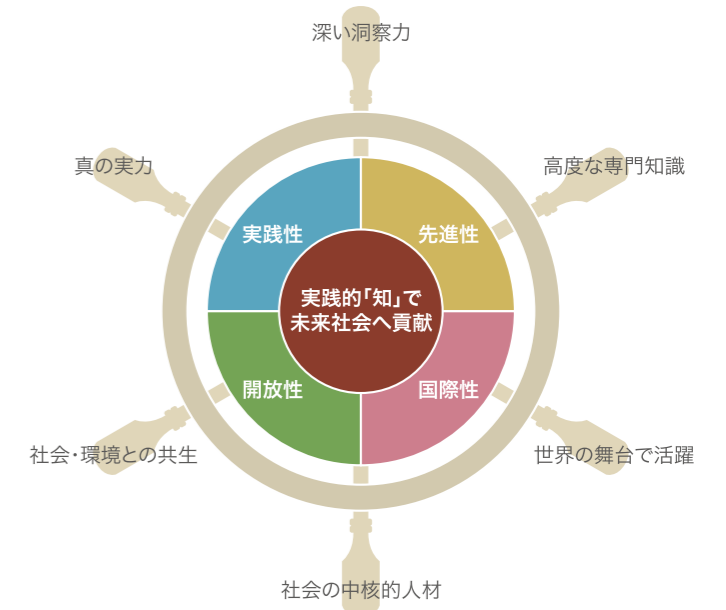
横浜国立大学は、Policy 1に掲げる実践的「知」を育むため、教養教育科目および専門教育科目等を体系的に編成するとともに、次のような取組を通して、学士課程教育の独創的な実現を図ります。

- 多様な価値観を理解し、高い倫理観を養い、総合的・創造的な能力を身につけるため、**先進的な研究成果を取り入れた教育**を実施します。
- 学際的な能力を身につけ広い視野を持った人材を育てるため、主専攻に加え、**課題探求能力の育成に対応する副専攻プログラム**などを充実させます。
- 課題を探求し、柔軟に思考し、独創的に解決する能力を育むため、**対話型・学生参加型の授業**を計画的かつ効果的に実施します。
- 自らの学びが世界に開かれたものとなるよう、**高いコミュニケーション能力と国際性を育成する教育**を全学的に展開します。
- 学生の資質に応じた自己実現を支援するため、**職業観、人生観、社会観の醸成を図るキャリア教育**を入学時から実施します。

Policy 3 [入学者受入れ] 社会に貢献できる意欲的な学生を求めて

横浜国立大学は、自然に恵まれた常盤台キャンパスで学問を学び、世界中からの友と語りつつ、柔軟な発想と総合的・創造的な課題探求・解決能力を身につけ、社会の中核となってグローバルな共生社会に貢献したいと思う人を求めています。

- **真の実力を得たい!**
社会においてリーダー的存在になる真の実力を得たい人
- **洞察力を磨きたい!**
科学的探求心を尊重し、チャレンジ精神に基づく研究・創造の場を通して、深い知識と洞察力を獲得したい人
- **世界の舞台で活躍したい!**
国際性溢れる環境の中で、外国人学生と共にコミュニケーション能力を高め、世界に発信・飛躍したい人
- **高度な専門知識で社会に貢献したい!**
大学院に進学し、さらに高度な専門的知識を身につけ、専門的な職種や職業で社会に貢献したい人



Policy 4 [教育の質の持続的向上] 常に質の高い教育を提供するために

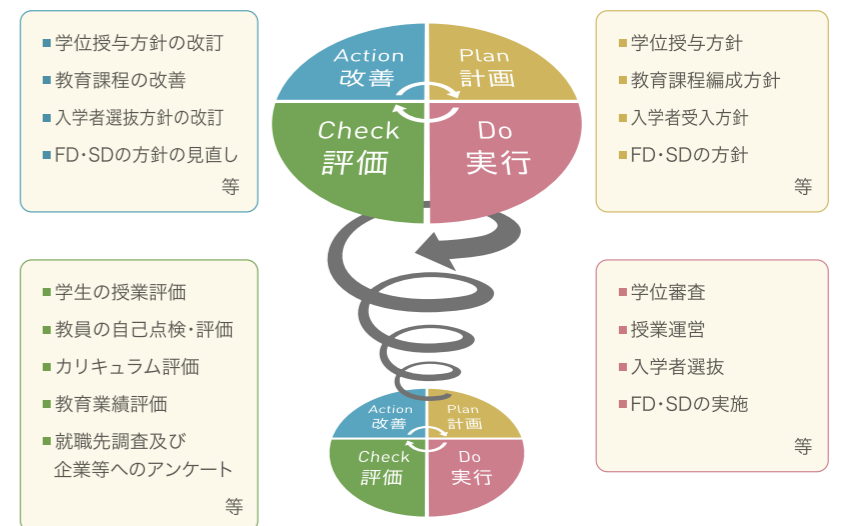
横浜国立大学は、教職員全員が自らの資質と能力を向上させる取組(ファカルティ・ディベロップメント、スタッフ・ディベロップメント)を推進し、本学が責任を持って提供すべきカリキュラムおよび授業内容の改善・向上ならびに学生支援に努めています。

■ ファカルティ・ディベロップメント(FD)

- 学生参加のもとでのカリキュラムや授業内容および授業方法の改善・向上を通じて、教員の資質・能力向上のために行う組織的かつ総合的な取組

■ スタッフ・ディベロップメント(SD)

- 教育研究活動の支援およびキャリアサポートなどを含めた職員の資質・能力向上のために行う組織的かつ総合的な取組



実践的「知」を育む YNU 教養教育

教養教育の目指すもの

多様で複雑な課題を抱えた21世紀のグローバル社会において、実践的「知」を備え社会の中核となって活躍できる人材を育成するために、専門教育とともに教養教育のさらなる充実を目指します。



教養教育の目標

本学では、教養教育に関する以下の4つの目標を立て、その実現に向け、不断の努力を重ねていきます。

1. さまざまな学問を主体的に学び、幅広い教養を身につけ、専門分野に必要な基礎学力を修得する。
2. 現代社会の提起する諸問題を多角的・総合的に考える能力を養う。
3. 国際感覚を養い、異文化への理解を深め、コミュニケーション能力を高める。
4. 人としてあるべき姿を自覚した倫理観と社会を構成する者としての責任感を育む。

教養教育科目と専門教育科目の履修イメージ(くさび型教育)

科目区分	1年		2年		3年		4年	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
専門教育科目			■各学部・学科・課程等の専門教育科目					
教養教育科目	■基礎演習科目						■卒業研究等	
	■教養コア科目						■卒業論文	
	■健康スポーツ科目		■情報リテラシー科目				■卒業制作	
	■外国語科目		■日本語・日本事情					

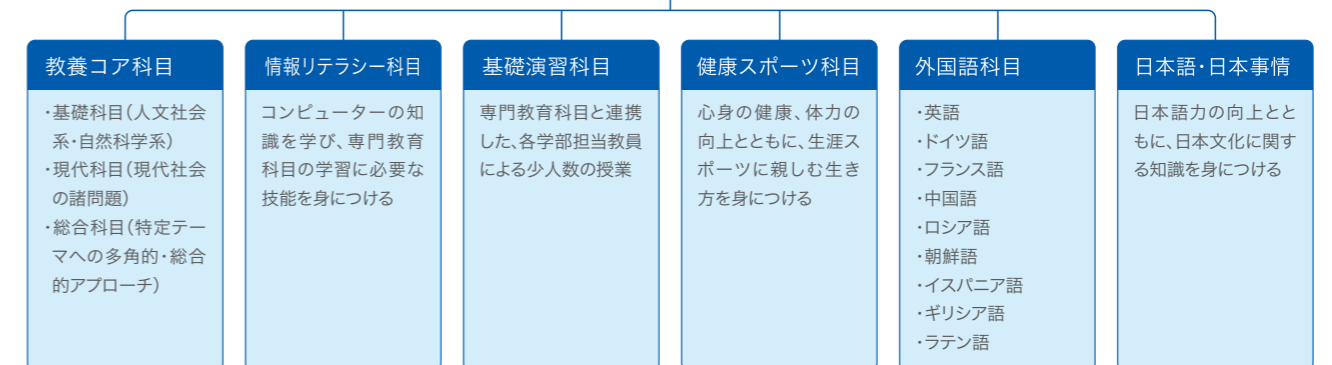
*詳細は学部によって異なります。

[教育課程の編成と実施] 幅広い教養とコミュニケーション能力を養うために

教養教育における左記4つの目標を実現するため、以下のような方針を立て、大学全体として、カリキュラムの企画・実施・改善等に取り組みます。

- 主体的に学び、幅広い教養を身につけることができるように、
科目選択の自由度を高め、多彩で豊かな科目を設置します。
- 教養教育科目と専門教育科目の双方向による学びを実現するため、教養教育の履修を低学年に限定しないくさび型教育と低学年における基礎演習科目の充実を図ります。
- 現代社会における諸問題への理解を深め、その解決に向けた取り組み方を考える力を養うために、
時代状況に即した授業科目を設置します。
- 問題解決のための多角的・総合的な視野を養うために、科目間の関連性を高め、
複数の学問領域にわたる授業科目を設置します。
- 高いコミュニケーション能力と国際性を養うために、
少人数制クラス編成を推進するとともに、
習熟度別クラス編成の実施により効果的な外国語教育を実現します。
- 多様な科目を設置し、効果的なカリキュラムを実施するため、
大学全体で責任をもち、質の高い教育を実現していきます。

教養教育科目の体系



[教育の質の持続的向上] 常に質の高い教養教育を提供するために

- 質の高い教養教育の維持・発展させるために、授業評価アンケートや教養教育に関するアンケートなどを通して学生のニーズや要望を踏まえ、カリキュラム改善及び授業改善に努めていきます。

» 教育人間科学部

Faculty of Education and Human Sciences

<http://www.edhs.ynu.ac.jp/>

教育の目指すもの

横浜国立大学は、大学全体の理念として「人類の福祉と社会の持続的発展に貢献する」ことを謳っています。

教育人間科学部は、この理念を実現していくために、学校教育課程、人間文化課程の2つの課程を通して、社会の中核となって活躍する人材の育成を目指しています。



Policy 1 | [学位授与] 客観的な評価に基づき広く通用する学位

教育人間科学部は、現代の教育、文化、社会の抱える諸課題を発見し、積極的に関わって課題解決しうる人材に求められる力を次の4つの実践的「知」と考え、これらを身につけた人材に対して、客観的な評価をし、国際的にも信頼される学位「学士(教育)、学士(教養)」を授与します。

■ 身につけて欲しい実践的「知」

知識・教養

- ・教育学及び人文科学・社会科学等の諸科学に関する基本的な専門知識
- ・人間・芸術・文化・社会・自然などを関連づけて理解し、課題を見出すことのできる領域横断的な知識・教養

思考力

- ・教育の場や社会・文化の現状を批判的に考察して諸課題を発見する能力
- ・知識・教養を活用して課題解決のプロセスなどを構想する論理的思考力
- ・既存の枠組みにとらわれずに新たな価値を構築する創造的思考力

コミュニケーション能力

- ・適切な言語やメディア等を駆使して、子ども、他者、異文化等と積極的に対話し、実践的・臨牀的に諸課題を解決できる能力
- ・多様な社会や文化と交渉し、多様な価値観をもつ人々と協働して問題解決にあたるリーダーシップ

倫理観・責任感

- ・子どもや他者との交流を通して、自身を変革し成長しようとする自己研鑽能力
- ・教育・社会・文化の現場に積極的に関与し課題解決しようとする強い意欲と責任感
- ・子どもや他者への想像力を働かせ、社会の持続的発展に寄与しようとする高い倫理観

各課程の教育目標

学校教育課程

国際化、情報化などを背景に、急速に変化する現代社会における教育の課題を解決していくことのできる実践的・総合的な資質を備えた教員の育成を目的としています。

人間文化課程

現代の社会・文化の抱える複雑な課題の発見の能力、社会・文化の持続的な発展を支える活動の企画立案と運営の能力、異文化間の媒介者として双方向的に活動できる能力などを備えた人材の養成を目的としています。



学校教育課程 附属小学校における教育実習の風景

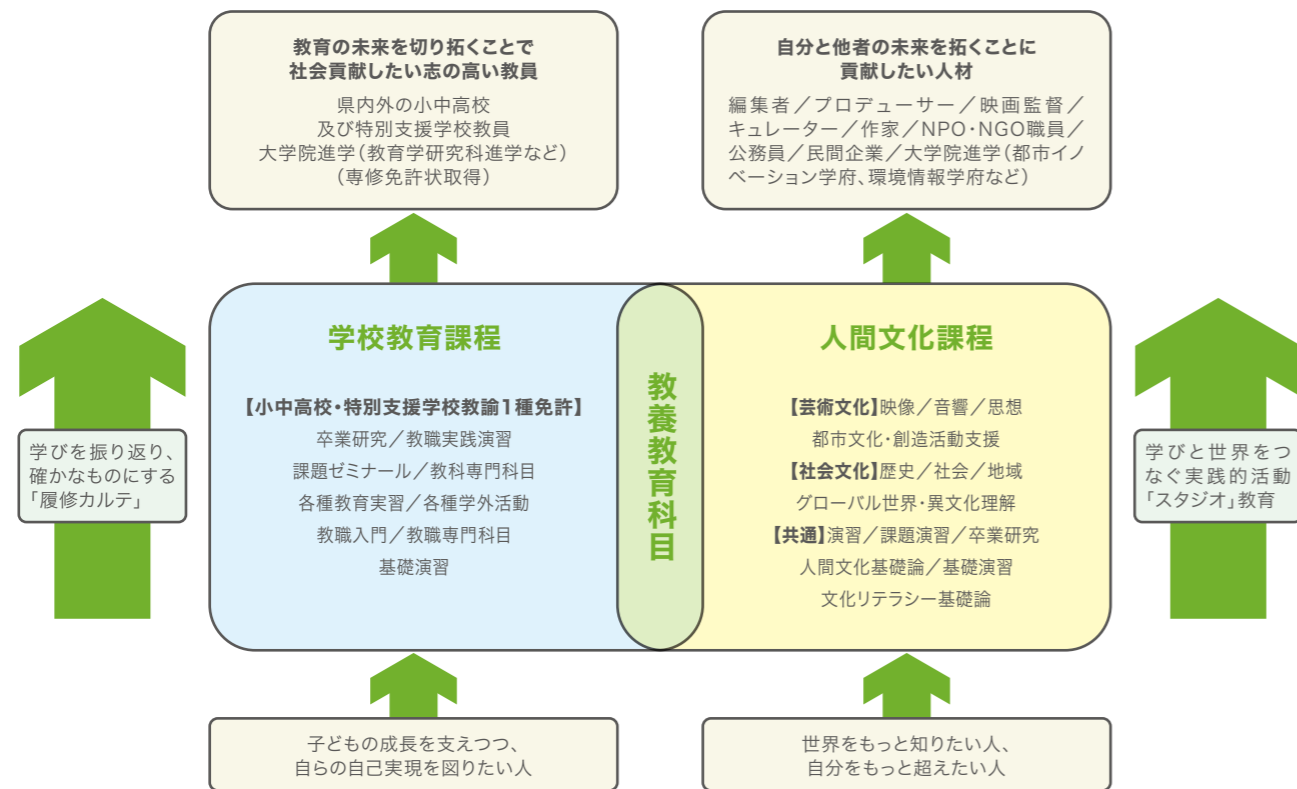


人間文化課程 スタジオ説明会における学生の聴講風景

Policy 2 [教育課程の編成と実施] 実践的「知」の獲得に向けた先進的なカリキュラムの編成

教育人間科学部は、4つの実践的「知」を育むために、教育、文化、社会等に関する専門的な知識・技能の習得と、学校やスタジオ(芸術系・社会系の実践的活動)など現場を活かして学びを深めることができるよう、先進的で体系的なカリキュラムの編成を行います。

- 教育、文化、社会等に関する深い理解力を養うために、教育学、人文科学、社会科学等の諸科学に関する先進的で体系的な内容の授業科目とともに、領域横断的な内容の授業科目を提供します。
- 課題を発見し解決に導く批判的思考力や創造的思考力等を養うために、専門的な知識・技能の習得とともに、それらを活用し試行錯誤が生かされる実践的・創造的な学習の場を提供します。
- 多様な他者と対話したり協働したりして課題解決に導くリーダーシップや交渉力などを高めるために、外国語を含む言語の能力やメディア活用の能力を高めるための理論的・実践的な教育を実施します。
- 多様な他者や価値観を理解し、高い倫理観・責任感を養い、自らも成長しようとする強い意欲を育むために、多様な他者や文化に関する知識を習得したり、実践的・体験的に認識を深めたりする場を、効果的に取り入れた教育を実施します。



Policy 3 [入学者受入れ] 問題意識を抱き、未来を切り拓いていこうとする人

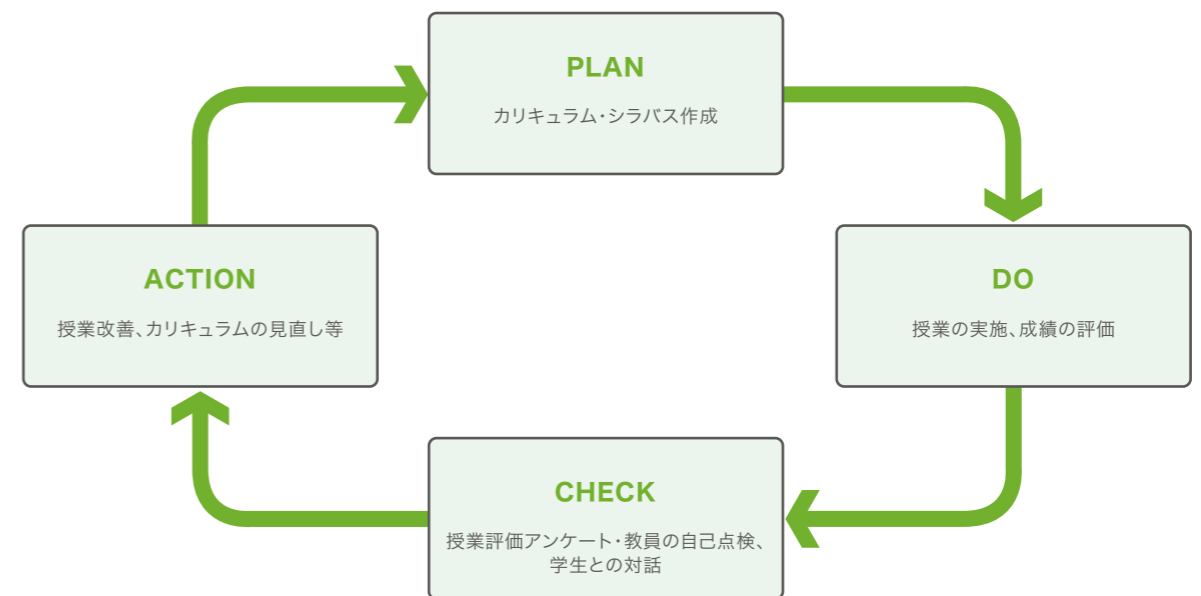
教育人間科学部は、高等学校までの基礎的な学力をしっかりと身につけた上で、複雑化する教育・文化・社会の現状に強い知的関心や問題意識を持ち、自ら積極的に関与し未来を切り拓いていこうとする高い志をもった人を求めています。

- 社会の様々な矛盾と連動する教育の諸課題に強い関心や問題意識を持ち、自ら教育の場に身を置き、個々の子どもたちの成長を支えつつ、教育の未来を切り拓くことで社会に貢献し、自己実現を図りたい人
- 現代の先端的な芸術・文化やサブカルチャーなどに広い関心や問題意識を持ち、種々のメディアを活用しつつ、自ら表現者として、あるいは公共の側から創造活動を支援する者として社会に貢献し、自己実現を図りたい人
- 流動的で多元化する社会に深い関心や問題意識を持ち、外国語能力を含む高いコミュニケーション能力を身につけ、多様な人々や異なる文化の間に媒介者として立って活動することで、社会に貢献し、自己実現を図りたい人

Policy 4 [教育の質の持続的向上] 質の高い教育を提供するために

教育人間科学部は、次のような具体的な活動を通して、質の高いカリキュラムや授業などを企画・実施・評価・維持・改善できるようFD活動の充実に努めます。

- 教員、科目、専門などによる偏りのない成績評価を実施し、成績評価の透明化と標準化を推進します。
- 全科目で学生による授業評価アンケートを実施し、教員はアンケートを参考に授業の改善に努めます。
- カリキュラムや授業等に関して、定期的に学生と教員が対話する場を設け、カリキュラムや授業、学習環境等を維持・改善します。



経済学部

Faculty of Economics

<http://www.econ.ynu.ac.jp/>

教育の目指すもの

1923年の横浜高商創設以来、理論と現実のバランスのとれた教育、貿易港横浜を背景とした国際色豊かな教育、数学・外国語・情報処理の基礎的学力を習得させる教育を培ってきました。こうした伝統に立ち、現代の課題と向き合う研究を活かし、経済学に基づく明晰な理論的思考力、地域固有の歴史や制度を深く洞察できる能力、グローバル化する経済の仕組みを理解できる広い国際的視野を備えた人材の育成を目指します。



Policy 1 | [学位授与] 国際的に広く通用する学位を授与するために

経済学部が授与する学位「学士(経済学)」は、国際的に幅広く通用する学士号です。今後とも、教育内容の国際的共通性・同等性・標準性等の一層の向上に努めます。

■ 身につけて欲しい実践的「知」

知識・教養

- ・経済学の基礎的専門知識
- ・経済を社会・文化・自然と関係付けて理解する幅広い教養

思考力

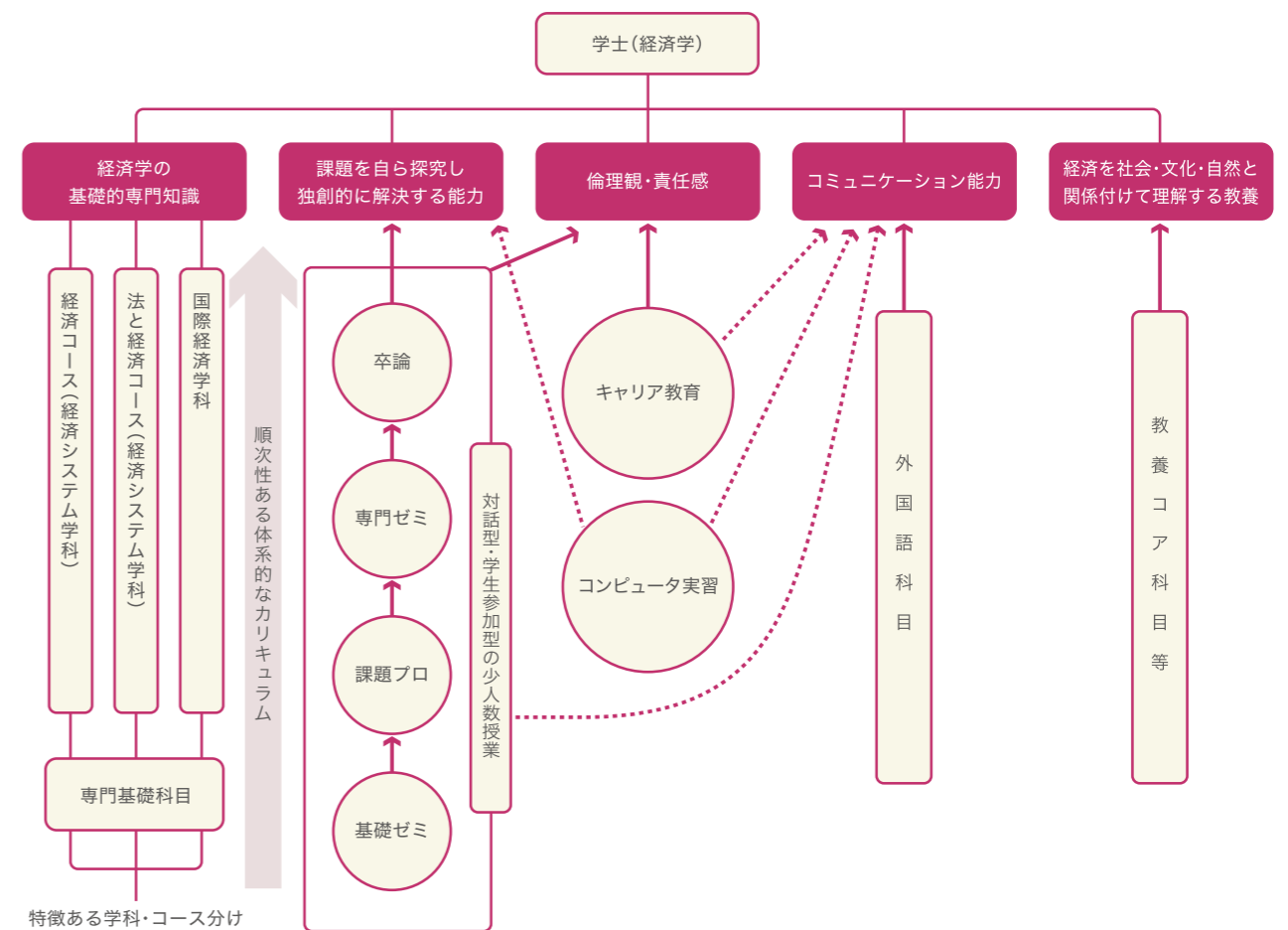
- ・経済社会の問題を体系的に認識・理解する能力
- ・経済問題に明晰な分析を加える能力
- ・経済問題に対し独創的な解決の方向を自ら探求する能力

コミュニケーション能力

- ・経済に関し必要な情報を主体的に選びアクセスするだけでなく、自己の思考によって編集し、適切な言語やモデルを選択して自ら発信する能力
- ・グローバルに協働して経済問題の解決にあたるリーダーシップ

倫理観・責任感

- ・生涯にわたり経済社会について学び続けようとする自己学習力
- ・経済社会のルールを遵守する倫理観
- ・積極的に経済社会に参加しようとする意欲と責任感



Policy 2 | [教育課程の編成と実施] 専門知識が身につくコース別・積み上げ型教育を目指して

■ 専門知識が身につくよう積み上げ型で提供される経済学の授業

経済学の基礎的専門知識が身につくように、全学科共通の基礎となるミクロ経済学、経済原論等から学習を始める順次性のある体系的な積み上げ型カリキュラム編成を目指します。その際、学科・コース別に特徴のある科目群を提供します。

【経済システム学科 経済コース】

経済メカニズムの明確な理解、社会経済問題の体系的認識に向けて、経済学の理論から、財政・金融、ファイナンス、統計・計量経済学、経済史などに至る広範な科目の順次的・体系的な提供を目指します。

【経済システム学科 法と経済コース】

複雑化する経済現象・企業行動に対し、法学と経済学の複眼的発想を持って取り組めるよう、基礎的な法律科目から、経済に密接に関係する法制度の科目まで提供します。本学には法科大学院も設置されています。

【国際経済学科】

国際都市に位置する横浜高商以来の伝統を引継ぎ、国際貿易、国際金融、経済開発などグローバル化する経済の仕組みを理解するとともに、各地域に固有の歴史、制度等の特性に対する深い理解も重視します。

■ 入学から卒業までの一貫した少人数授業の充実

課題を自ら探求し独創的に解決する能力を育むため、新入生全員向けの基礎演習から始まり、2-3年の課題プロジェクト演習、3-4年の専門演習(ゼミナール)を経て、個別指導による卒業論文の完成に至るまで、対話型・学生参加型の少人数授業を計画的かつ効果的に実施します。

■ 国際的に活躍できるコミュニケーション能力を育む教育

1年生からコンピュータを用いた実習を行うとともに、英語教育を重視し、欧州での英語討論会、協定校への短期留学等の充実を図り、国際的に通用するコミュニケーション能力を育成します。

■ 卒業後の進路設計をサポートするキャリア教育の実施

「キャリア形成論」をはじめとして、インターンシップや企業との連携による講義を通じ、学生の職業観や倫理観の醸成を支援するキャリア教育を実施します。

Policy 3 | [入学者受入れ] 実践的「知」を身につけたい意欲的な学生を求めて

経済学部は、数理的・論理的分析と国際コミュニケーション能力を重視していることから、入学者は、高等学校における基本科目の幅広い学習に加え、数学や英語の基礎的学力を備えている必要があります。その上で、次のような意欲ある人を求めています。

■ 情報を自らの思考で編集し自ら発信したい!

必要な情報にアクセスするだけでなく、自己の思考によってそれを編集し、更には自ら情報を発信していく力をつけようとする人

■ 実践力を身につけたい!

知的好奇心にあふれるとともに、新しい見方やアイデアを具体化していくプラグマティックな能力を身につけようとする人

また、「外国学校出身者入試」を長年にわたり行いグローバルな経験を積んだ学生を積極的に迎えているなど、多彩な経験を活かしたい人も求めています。

Policy 4 | [教育の質の持続的向上] 授業を常に改善していくために

FD活動の一環として、専門分野ごとに授業改善に向けた意見交換に努めている他、以下の項目を実施します。

- 学生による授業評価アンケート
- ベスト・ティーチャー賞
- 公開授業、授業改善セミナー
- 就職先の企業等へのアンケート



» 経営学部

Faculty of Business Administration

<http://www.business.ynu.ac.jp/>

教育の目指すもの

理論と実践の統合を追求する教育を実施することで、企業・組織が行う多様な計画・活動・運営・評価に関する問題発見と、その創造的解決ができる能力を養います。それを通じて今日の高度に複雑化した社会の中で、情報を的確に分析・判断し、環境にも配慮しつつ、国際的にも活躍できる人材を育成します。



Policy 1 [学位授与] 海外でも広く通用する学位を授与するために

経営学部は、実践的「知」を身につけた人材に対し、客観的な評価に基づいて、国際的にも幅広く通用する学位として「学士(経営学)」を授与します。

■ 身につけて欲しい実践的「知」

知識・教養

- ・経営学の基礎的専門知識
- ・経営にかかわる事象を多面的にとらえ、その本質を理解することのできる教養

思考力

- ・経営にかかわる問題や課題を発見する能力
- ・問題や課題を科学的に分析・検討し、創造的に解決する能力

コミュニケーション能力

- ・自分の考えを論理的に表現し、効果的に伝える能力
- ・多様な人々と協力して企画を立案し、それを実行するためのリーダーシップを発揮する能力

倫理観・責任感

- ・社会人として経営について学び続ける探究心
- ・社会の構成員として社会への貢献を常に考えて行動する高い倫理観と責任感

Policy 2 [教育課程の編成と実施] 理論と実践の統合的教育を目指して

実践的「知」を育むために、大学全体で行う教養教育に加え、専門科目では、段階性・連続性に配慮した教育課程を編成します。

■ 多様な観点からの洞察力を身につけるのに必要な素養を培うために、教養教育と専門科目の連携を図ります。

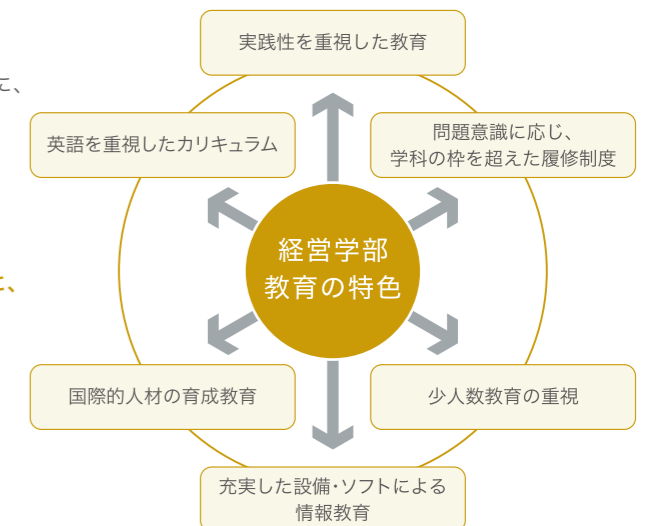
■ 経営学の基礎理論の体系的学習を促進するために、専門分野ごとの履修プログラムと履修ステップを明示するとともに、専門基礎科目については教育内容の標準化を進めます。

■ 専門基礎力と応用力を養い、理論と実践の統合を図るために、実践性を重視した副専攻プログラムを充実します。

■ 個々の問題意識をより深め、その創造的解決能力を高めるために、対話型の少人数教育を実施します。

■ 国際的にも活躍できる人材を育成するために、ビジネス英語を中心に実践的英語教育を推進します。

■ 個々の進路設計を支援するために、キャリア・サポート、ポータルサイト等、キャリア教育をより一層充実していきます。



学科の教育目標

経営学科

国際化・情報化・環境問題のような21世紀の諸課題に対処するという観点から、新しい企業経営の方向性を探究することのできる、多角的な視野を持った人材を育成します。

経営システム科学科

数量的手法や情報技術を用いて、経営資源を有効に活用し、経済成果を生むための「科学的手法」を身につけ、合理的な問題解決能力を有する人材を育成します。

会計・情報学科

会計のスペシャリストの育成を目指し、会計情報の作成、それを利用した分析および会計情報が企業を中心とした他の組織体にも与える影響を理解できる人材を育成します。

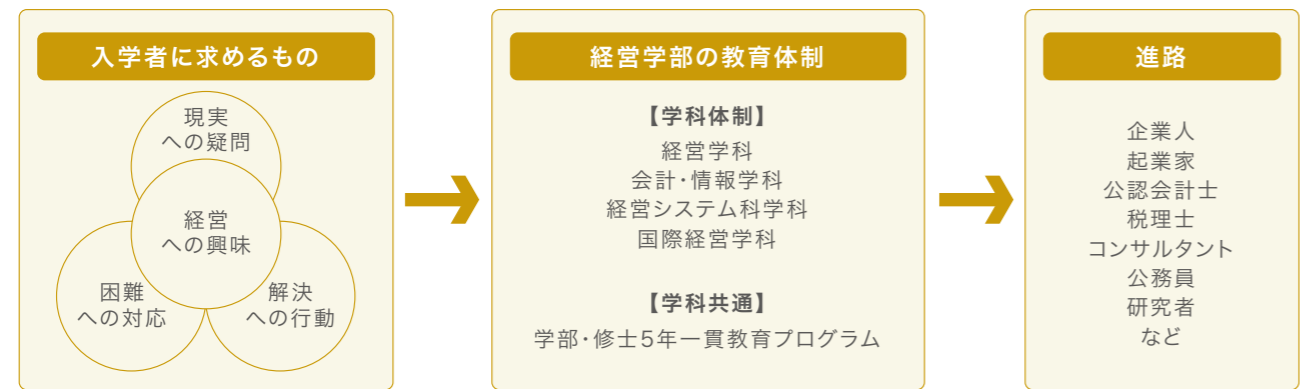
国際経営学科

企業の国際的活動やその根底にある社会経済的の制度について十分な理解力とコミュニケーション能力を有する国際的に活躍できる人材を育成します。

Policy 3 | [入学者受入れ] 社会の発展に貢献したい意欲的な学生を求めて

企業は多面的な要素(ヒト、モノ、カネ、情報)と活動(研究開発、調達、生産、販売など)から構成され、複雑化しています。企業や組織の抱える問題に対する答えを出すのは容易ではありません。その答えを探す努力を惜しまない、次のような学生を求めています。

- 企業をはじめとする各種組織の経営に関する問題に興味のある人
- 興味を持ったら、その中の何かに対して疑問を持てる人
- 疑問を持ったら自ら解決に向かって行動できる人
- その過程で困難に出会っても積極的に立ち向かえる人

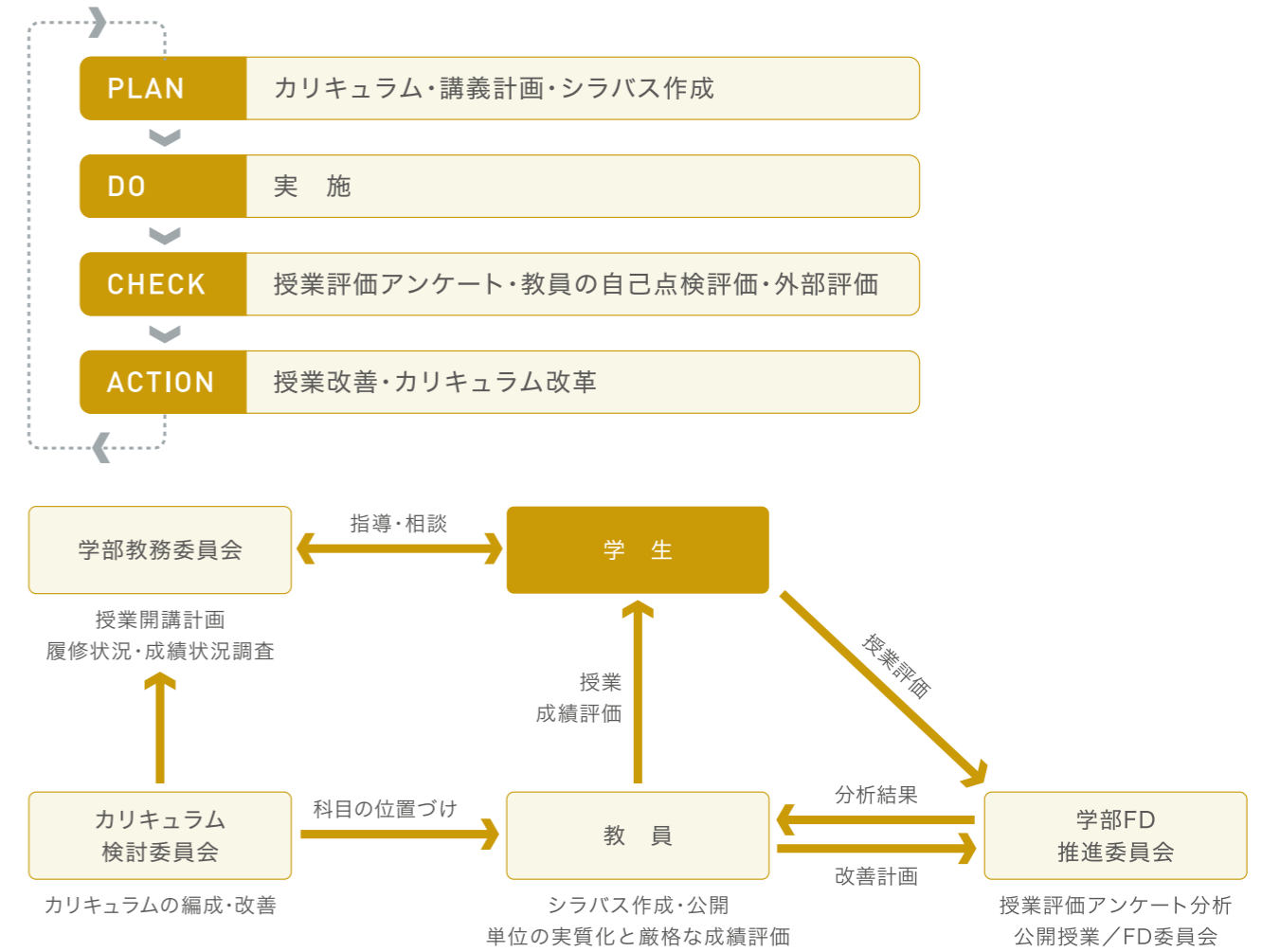


【学部・修士5年一貫教育プログラム】は経営学部全学科の学生を対象に4年生からスタートするプログラムです。プログラムに所属する学生は4年生から修士課程の講義を受講し、学部入学から最短5年で修士(経営学)の学位を取得することができます。



Policy 4 | [教育の質の持続的向上] 改善を通じた質の高い教育を提供するために

経営学部では、P:カリキュラム・講義計画・シラバス作成→D:実施→C:授業評価アンケート・教員の自己点検評価・外部評価→A:授業改善・カリキュラム改革という一連のPDCAサイクルを通じて、中期計画および年度ごとの教育改善・カリキュラム改革を進めていきます。また、それに必要な組織的取り組みを行っていきます。



理工学部

School of Engineering Science

<http://www.es.ynu.ac.jp/>

教育の目指すもの

地球規模の環境問題など社会の要請を把握し、自然科学の真理を追究し、産業を発展させ、輝ける未来を切り開くために研究者・技術者の果たすべき役割はより大きくなっています。実践的学術の国際拠点を目指す本学・理工学部では、自らの専門分野における専門能力と高い倫理性を持ち、広く科学技術に目を向ける進取の精神に富む人材育成を目的とします。



Policy 1 | [学位授与] 客観的な評価に基づき世界に誇ることのできる学位

理工学部では、次に掲げる実践的「知」を身につけた人材に対して、透明で客観的な評価に基づいて、世界に誇ることのできる学位として学士(工学)、学士(理学)を授与します。

■ 身につけて欲しい実践的「知」

知識・教養

- ・科学技術の進歩に対応できる専門知識
- ・人間・自然・社会・科学技術を関連づける幅広い教養

思考力

- ・新しい問題を発見して知の地平を開拓し、社会での実践につなげる創造的能力
- ・専門分野の学習、研究を通して身につける解析力

コミュニケーション能力

- ・さまざまな知識や経験、価値観を持った人々と交流し、広い視野から問題をとらえ、世界をリードし得る能力

倫理観・責任感

- ・将来の社会を見据え、あるべき社会のために自らの能力を正しく持続的・効果的に発揮できる判断力と自己学習能力
- ・科学者・技術者としての高い倫理観
- ・技術開発と科学の発展が人間や社会、環境に及ぼすことへの自覚と責任感

名教自然



理工学部が掲げる教育の理念は、登録有形文化財の自学自発の教育の精神をあらわす「名教自然の碑」(1937年建立)に刻まれています。

理工学部

主専攻 学科および教育プログラム(EP)

機械工学・材料系学科

機械工学EP
材料工学EP

建築都市・環境系学科

建築EP
都市基盤EP
海洋空間のシステムデザインEP
地球生態学EP

化学・生命系学科

化学EP
化学応用EP
バイオEP

数物・電子情報系学科

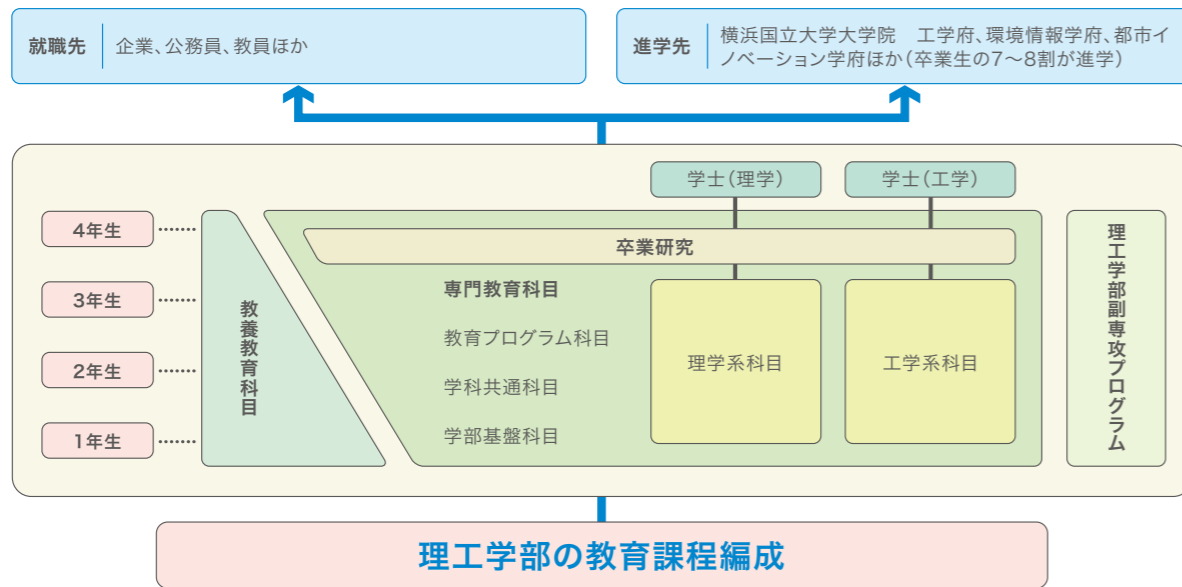
数理科学EP
物理工学EP
電子情報システムEP
情報工学EP

理工学部では、これまでの学部・学科にあった縦割りの壁を取り除き、関連する人材育成分野を統合して、4つの学科を設置しています。さらに、学士の学位を与える課程(EP・教育プログラム)を中心とした教育を行うために、各学科は専門分野ごとに複数の教育プログラム(EP)から構成されており、特色ある教育課程が用意されています。

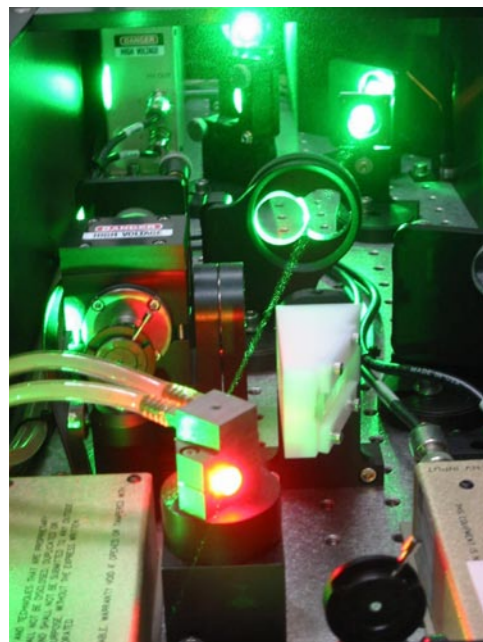


Policy 2 | [教育課程の編成と実施] 新たな知の地平を目指して

理工学部では、理工学の基礎となる知識を培う学部基盤科目、学科に必要な基礎知識を習得する学科共通科目、さらに専門性の高い教育プログラム科目を配置することで体系的に理工学教育を行います。教育プログラム科目を中心に主専攻の専門科目の履修に応じて、学士(工学)、学士(理学)の学位が授与されます。また、広く他分野の科学技術に目を向け、新たな知識の地平を切り開く力を養うため、学部内を横断する副専攻プログラムを導入しています。さらに、学部学生の80%近くが大学院に進学することから、学部と大学院との強い連携を持っていることが特徴です。



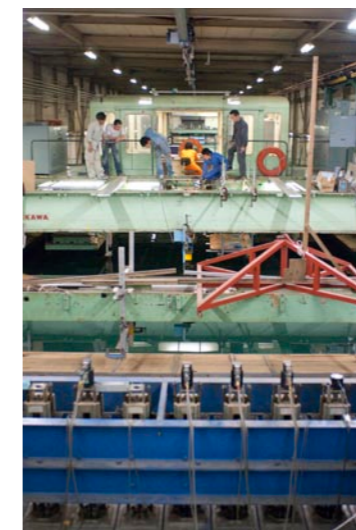
授与学位は、教育プログラムによって異なります



世界最先端のレーザー



マングローブ林内の照度測定



海洋波再現造波装置



Policy 3 | [入学者受入れ] 理工学の学びを通して実践的「知」を身につけたい意欲的な学生を求めています

理工学部では次のような学生を求めています。

■自然科学の真理探究や独創的なもの作りを通して、自ら成長・発展しようとする人

■何ごとにも旺盛な好奇心を持ち、失敗をおそれない、チャレンジ精神にあふれている人

■新しい時代に対応できる理工系のセンスと国際的な視野を磨こうとする人

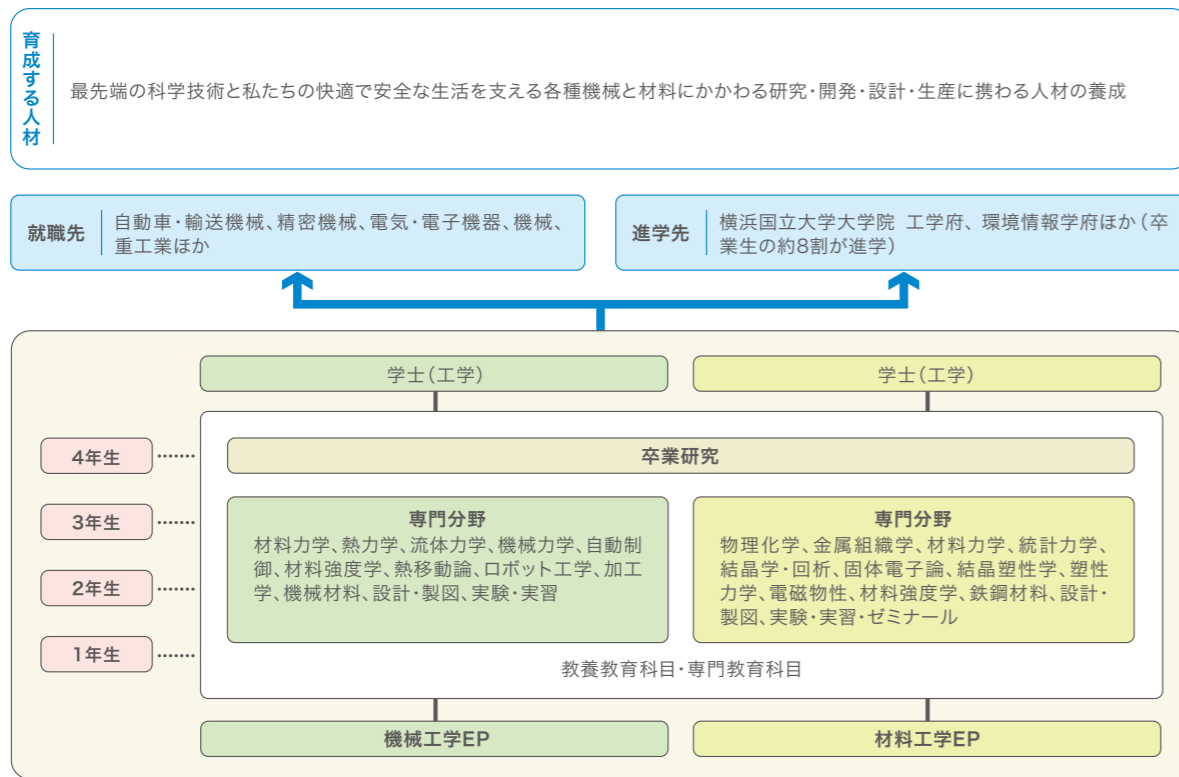
■胸がときめくようなアイデアを確かな知識と技術で実現しようとする人

■我が国が世界から信頼される存在となるよう、自分の仕事を通じて貢献したいと願う人

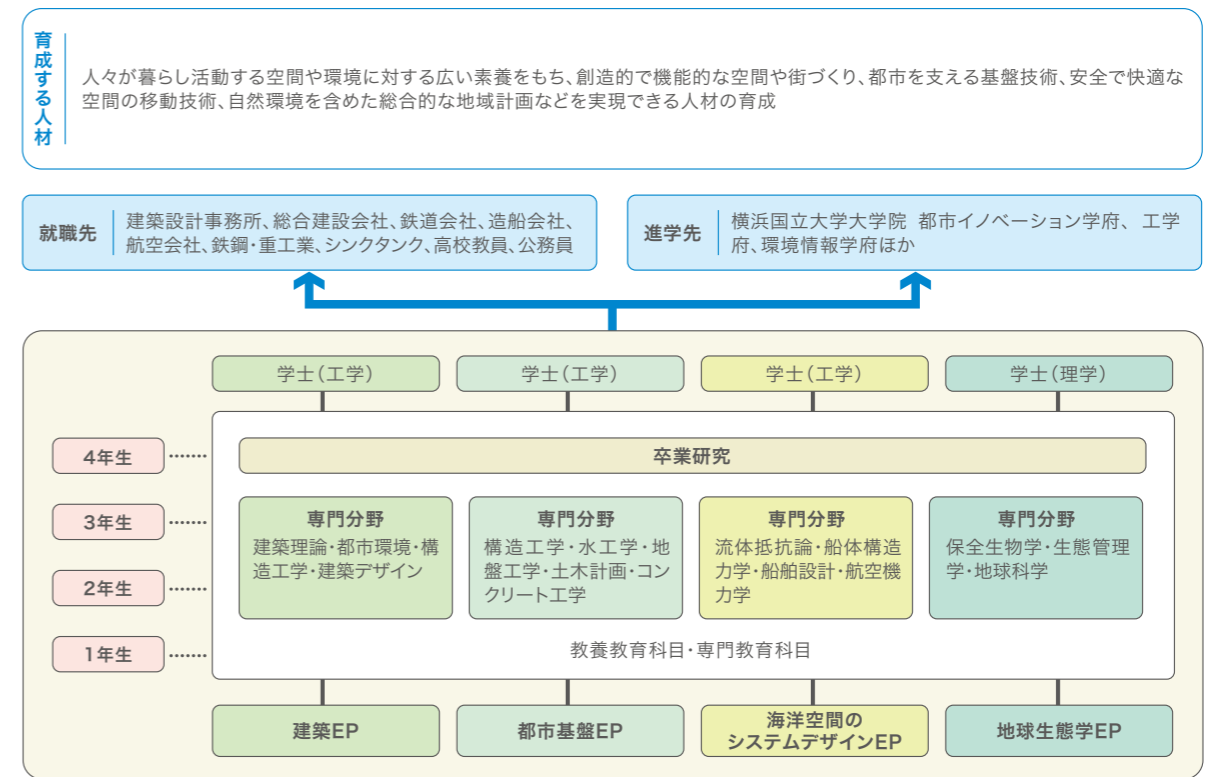
Policy 4 | [教育の質の持続的向上] 常に授業を改善し、質の高い教育を提供するために

学生による授業評価や他の教員との教授法の意見交換によるファカルティ・ディベロップメント活動を通して、より理想的な教育を目指しています。また、理工学部の複数の教育プログラムは、日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を受けた工学部の学科教育に準じており、本学での授業が技術者教育プログラムとして、国際的な水準を満たしています。

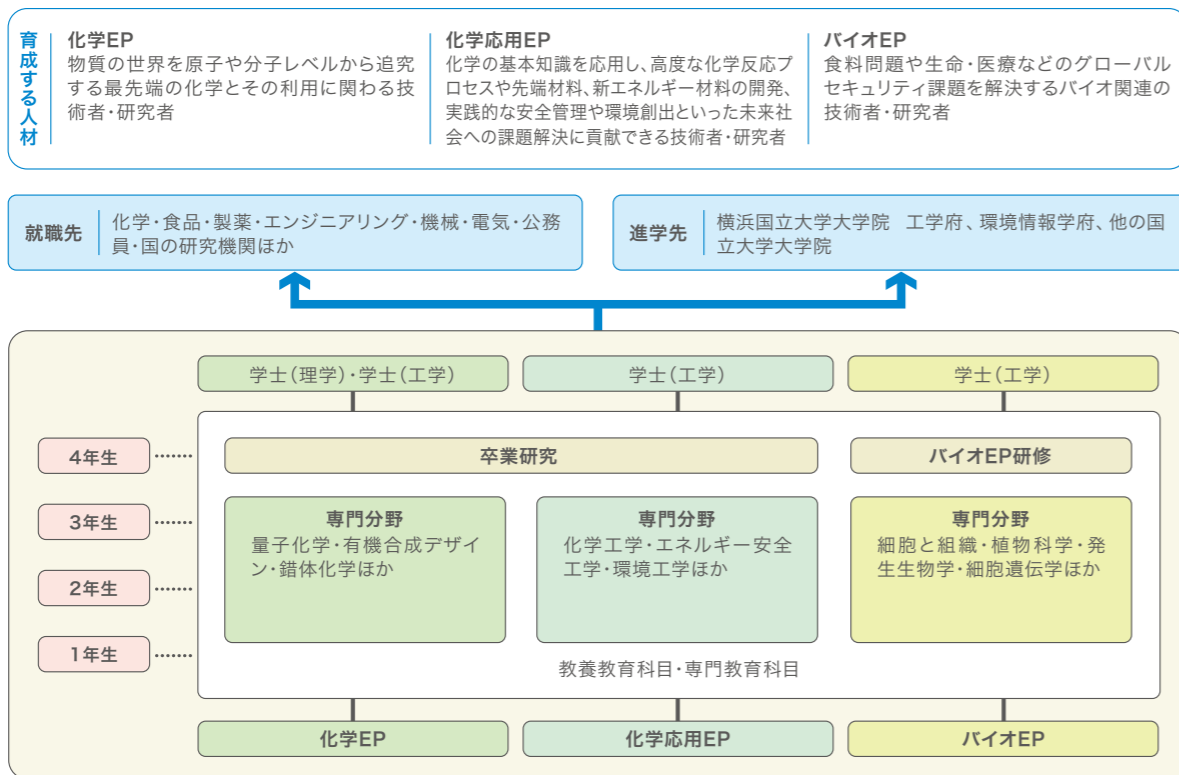
■ 機械工学・材料系学科 | 学科の特色:基礎から専門まで、基盤教育の充実/少人数教育による親身な指導



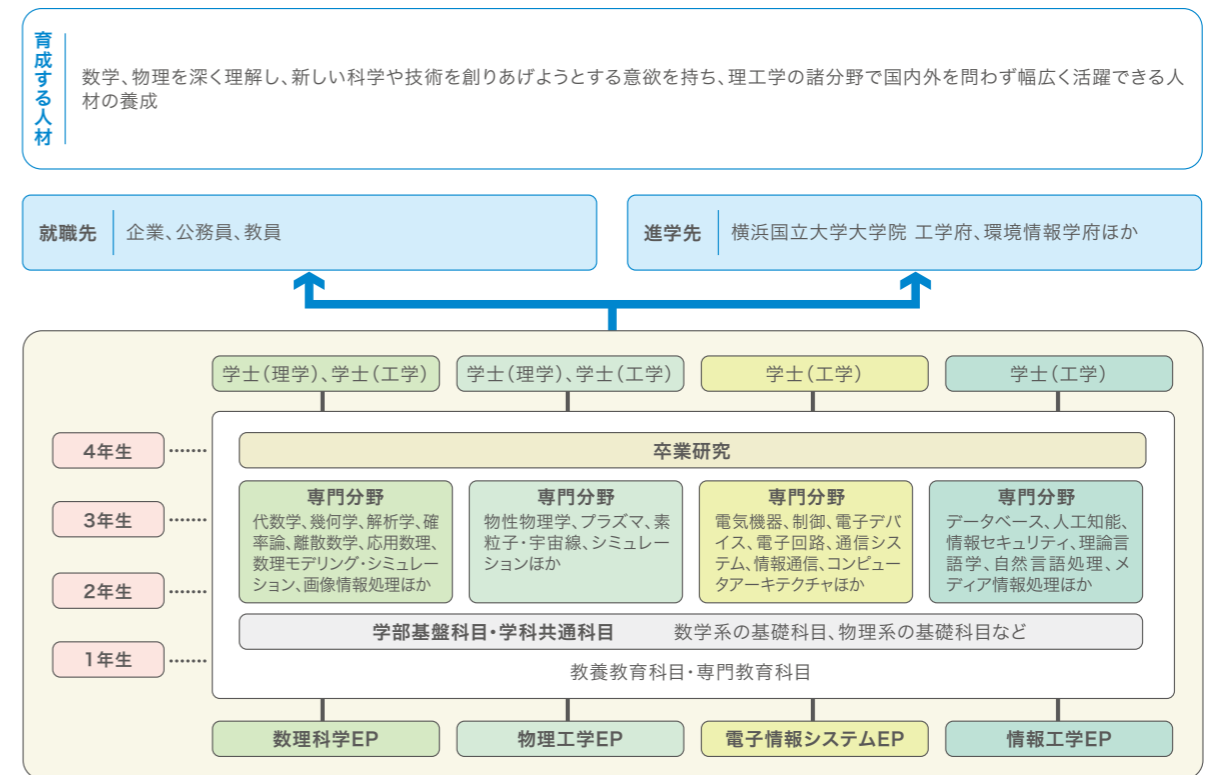
■ 建築都市・環境系学科 | 学科の特色:EPごとの高度な専門とともに学科共通科目を設定し、幅広い視野を養う



■ 化学・生命系学科 | 学科の特色:物質や材料、エネルギー、安全、環境、生命について広く深く知り、人と生物にとって持続的な社会を構築できる未来志向型の人材を育成



■ 数物・電子情報系学科 | 学科の特色:4つのEPのコラボレーションにより提供される幅広い分野の科目群から専門に応じて履修する



Campus Map



北エリア (N)
南エリア (S)
※メインストリートを境に北をNエリア、南をSエリアと表します。

■ 教育人間科学部

- S3-3 教育人間科学部事務棟
- S3-2 教育人間科学部第1研究棟
- S3-4 教育人間科学部第2研究棟
- S4-2 教育人間科学部4号館(美術棟)
- S4-1 教育人間科学部5号館(音楽棟)
- S3-1 教育人間科学部講義棟6号館
- S2-2 教育人間科学部講義棟7号館
- S2-1 教育人間科学部講義棟8号館
- S2-3 教育人間科学部教育デザインセンター
- S4-3 教育人間科学部第3研究棟
- S3-5 教育人間科学部別棟

■ 経済学部

- N4-1 経済学部1号館
- N4-2 経済学部講義棟1号館
- N4-3 経済学部講義棟2号館
- N4-4 経済学部新研究棟

■ 経営学部

- N3-4 経営学部1号館
- N3-5 経営学部講義棟1号館
- N3-1 経営学研究棟
- N3-3 経営学部講義棟2号館

■ 国際社会科学部

- N4-5 国際経済学系研究棟
- N3-2 国際社会科学部研究棟

■ 環境情報学部・研究院

- S7-5 環境情報1号棟
- S6-2 環境情報2号棟
- S6-3 環境情報3号棟
- S6-1 環境情報4号棟
- S9-1 総合研究棟S棟
- S9-1 総合研究棟E棟

■ 理工学部/工学府・研究院/都市イノベーション学部・研究院

- N8-4 理工学系事務棟
- N6-5 生産工学科棟
- N6-4 生産工学科2号棟
- N7-6 機械工場A棟
- N7-7 機械工場B棟
- N6-6 金属塑性加工実験室
- S7-6 物質工学科化学棟
- S8-3 建設学科土木工学棟
- S8-2 建設学科土木構造実験棟
- S8-4 建設学科水理実験棟
- N5-3 建設学科建築学棟
- N5-1 建設学科建築構造実験棟

■ 理工学部/工学府・研究院/都市イノベーション学部・研究院

- N5-2 建設学科建築材料・環境実験棟
- N10-1 建設学科船舶海洋工学棟
- N10-3 建設学科船舶海洋実験棟
- N10-2 建設学科大型水槽実験棟
- N6-2 電子情報工学科棟
- N6-1 電子情報工学科計算機実験棟
- N7-3 特別高圧実験棟
- N6-3 機械変電室
- N8-5 物質工学科化工・安工棟
- N8-6 危険物屋内貯蔵庫
- N8-1 低温工学棟
- S5-6 工学基礎研究棟
- S5-1 理学実験棟
- S5-3 理学研究棟
- S5-5 理工学部講義棟A
- S5-7 理工学部講義棟A(107)
- S5-8 理工学部講義棟B
- N7-4 太陽水素エネルギー実験棟
- N7-9 可視化風洞実験棟
- N8-3 物質工学科エネルギー工学棟
- S5-9 理工学部講義棟C
- S7-1 大学院工学研究棟
- S7-2 生物・電子情報棟
- S9-1 総合研究棟W棟

■ 事務局

- N2-2 事務局庁舎
- N2-1 学務部庁舎
- N2-4 事務局車庫
- S1-1 守衛所
- N1-1 納品検収センター
- S1-4 キャリア・サポートルーム

■ 附属図書館

- S3-6 中央図書館
- S7-3 理工学系研究図書館

■ 総合研究棟

- S9-1 総合研究棟W棟・S棟・E棟

■ 厚生施設

- S6-4 職員宿泊所
- S1-5 大学会館
- S1-4 第1食堂
- N10-5 第2食堂・大学生協
- N10-4 Sガーデン(カフェテラス ポンパスト・ローソン)

■ 課外活動施設

- S1-7 体育館・武道館
- S0-2 運動場管理棟
- S1-6 文化サークル共用施設
- S1-8 弓道場射場
- N7-8 モータースポーツ部部室
- S0-1 体育サークル会館

■ 管理施設

- N9-1 排水浄化センター
- N7-1 エネルギーセンター

■ 全学教育研究施設等

- S2-2 統合的海洋教育・研究センター
- N4-1 地域実践教育研究センター
- N4-1 企業成長戦略研究センター
- S5-6 学際プロジェクト研究センター
- S5-3 安心・安全の科学研究教育センター
- S5-4 情報基盤センター
- S5-2 情報基盤センター別館、大学教育総合センター
- N8-2 機器分析評価センター
- N2-3 保健管理センター
- S8-1 RIセンター
- N9-2 研究推進機構産学連携推進本部、共同研究推進センター
- S1-3 留学生センター
- S7-4 ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー
- S1-2 教育文化ホール
- S9-1 インキュベーション施設
- S9-1 未来情報通信医療社会基盤センター
- N7-5 全学共用棟A
- N7-2 全学共用棟B